

“なりすまし”、あなたの顧客も狙われています

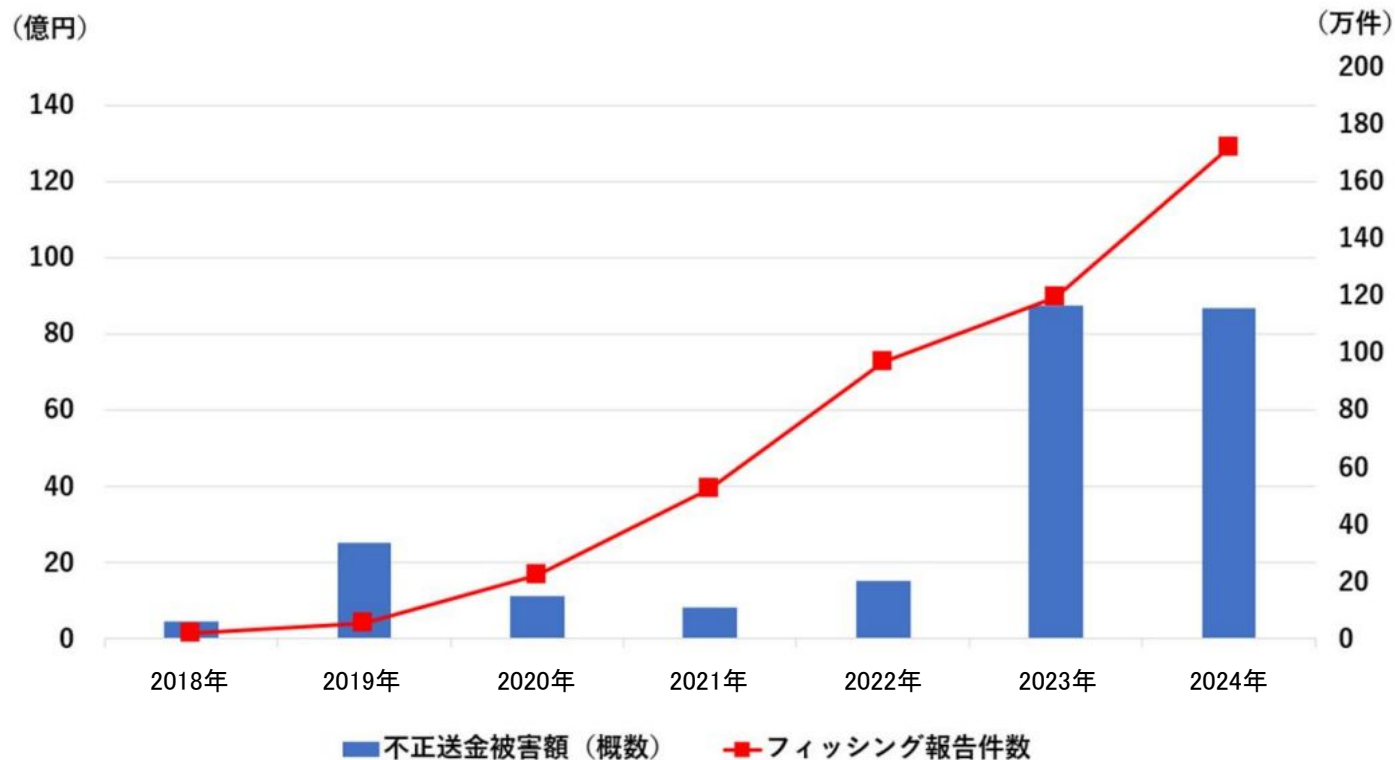
"丸投げ"事業共創のご提案

GMO なりすましメール対策支援サービス
(BIMI/VMC/DMARC)

GMO グローバルサイン・HD
GlobalSign



フィッシング報告件数及びインターネットバンキングに係る不正送金被害額



参考1: 警察庁サイバー警察局「令和6年における サイバー空間をめぐる脅威の情勢等について」
参考2: フィッシング対策協議会「フィッシングレポート 2025」

総務省 DMARC・BIMIの導入を名指しで要請

令和7年9月1日


フィッシングメール対策の強化に関する要請

総務省は、本日、事業者団体を通じて、電気通信事業者に対して、フィッシングメール対策の強化について、文書により要請を実施しました。

フィッシングメール対策について、政府は、「国民を詐欺から守るための総合対策2.0(令和7年4月22日犯罪対策閣僚会議決定)」において、「詐欺メール、詐欺SMSによる被害防止等のための取組」として、「送信ドメイン認証技術(DMARC等)への更なる対応促進」を掲げているところです。

最近では、実在する証券会社を装ったフィッシングメール等から窃取した顧客情報(ログインIDやパスワード等)によるインターネット取引サービスでの不正アクセス・不正取引(第三者による取引)の被害が急増しています。

電気通信事業者においては、従前よりフィッシングの被害防止に向けて、送信ドメイン認証技術の導入含め、様々な対策を推進しているところですが、生成AIを用い、自然な日本語を大量に生成できるようになり、これまで以上に精巧なフィッシングメールの送付が容易となっている中、こうしたフィッシングメールへの更なる対策が求められるところ、総務省は、本日、事業者団体を通じて、電気通信事業者に対して、より効果的な対策に取り組むことを要請しました。

事業者団体への要請内容は別紙  を御覧ください。

抜粋

- ・なりすましメール対策として有効なDMARCの導入やDMARCポリシーの設定(隔離、拒否)を行うこと。
- ・ドメインレピュテーション、BIMI、踏み台送信対策等の更なる対策の導入を積極的に検討していくこと。

日本証券業協会のガイドライン改正

「インターネット取引における不正アクセス等防止に向けたガイドライン」の改正について(案)

2025 年 7 月 15 日
日本証券業協会

4. フィッシング詐欺等被害未然防止のための措置

【スタンダード】

(1) 顧客へ送信する電子メールのドメインを特定し、DMARC等の送信ドメイン認証技術の計画的な導入を行う。また、DMARC レポート等の確認等を行った上で、ポリシーは「reject」にする。

【ベストプラクティス】

① 電子メールにブランドのロゴや公式マークが表示されるよう、BIMI への対応を行う。

1. 改正の趣旨

本協会では2021年3月に、インターネット取引における証券取引口座の開設時から出金に至る各段階における不正防止、脆弱性対策や情報管理、不正利用時の対応等についての具体的な留意事項を「インターネット取引における不正アクセス等防止に向けたガイドライン」(以下、「ガイドライン」)として取りまとめた。

また、2021年7月には、会員の外部委託先の従業員による不正アクセス・出金が発生したこと等を踏まえ、ガイドラインにおける外部委託先の顧客情報に係る安全管理措置等について、より具体的な事項を定めるための改正を行ってきたところである。

今般、公的個人認証サービス利用や多要素認証の普及・定着などインターネット技術の利活用に係る環境の変化に加え、昨今、フィッシング及びマルウェアにより、顧客情報(ID、パスワード等)が窃取され、インターネット取引において不正アクセス・なりすまし取引等により、従来の不正出金ではなく、不正取引に悪用されている事案が発生したことを踏まえ、ガイドラインの改正を行うこととする。

参考: 日本証券業協会「「インターネット取引における不正アクセス等防止に向けたガイドライン」の改正について(案)」

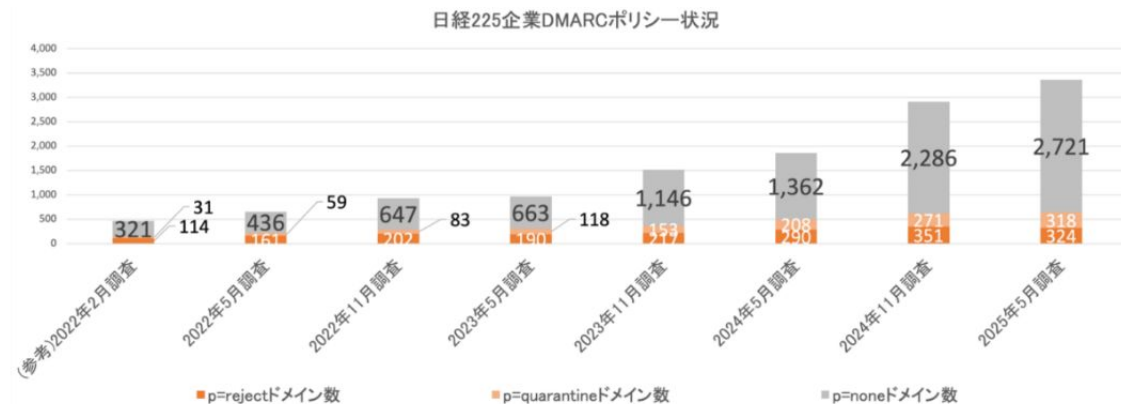
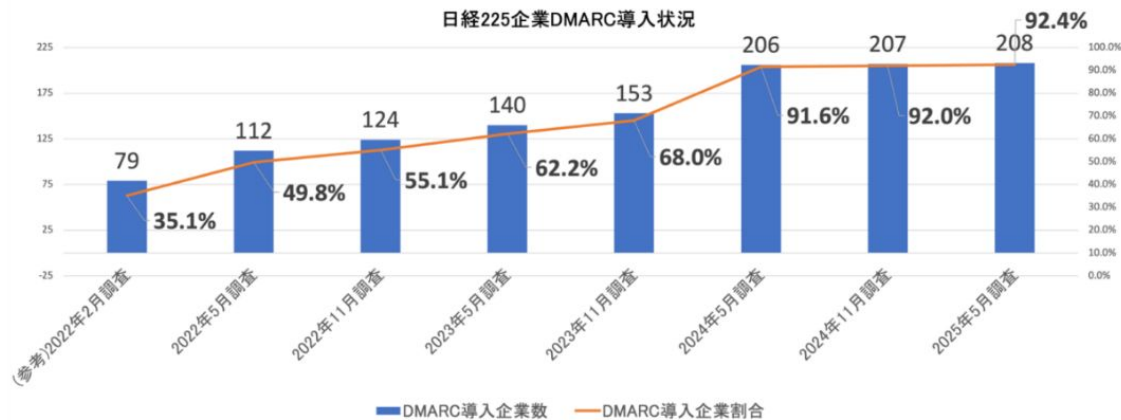
DMARCに言及している 各業界のセキュリティ ガイドライン一覧

DMARCに関する言及内容	分野	発行元	ガイドライン
「拒否」設定必須	金融	日本証券業協会	インターネット取引における不正アクセスなど防止に向けたガイドライン
「拒否」設定推奨	共通	国家サイバー統括室	情報システムに係る政府調達におけるセキュリティ要件策定マニュアル
		フィッシング対策協議会	フィッシング対策ガイドライン
「隔離または拒否」設定推奨		国家サイバー統括室	政府機関などの対策基準策定のためのガイドライン
導入必須。具体的な推奨設定値なし	政府・行政サービス	総務省	地方公共団体における情報セキュリティポリシーに関するガイドライン
導入推奨。具体的な推奨設定値なし	共通	経済産業省	サイバー・フィジカル・セキュリティ対策フレームワーク
	金融	金融庁	金融分野におけるサイバーセキュリティに関するガイドライン
		金融情報システムセンター	金融機関などコンピュータシステムの安全対策基準・解説書
	空港	国土交通省	空港分野における情報セキュリティ確保に係る安全ガイドライン
	航空		航空分野における情報セキュリティ確保に係る安全ガイドライン
	港湾		港湾分野における情報セキュリティ確保に係る安全ガイドライン
	水道		水道分野における情報セキュリティ確保に係る安全ガイドライン
	鉄道		鉄道分野における情報セキュリティ確保に係る安全ガイドライン
	物流		物流分野(貨物自動車運送)における情報セキュリティ確保に係る安全ガイドライン
			物流分野(船舶運航)における情報セキュリティ確保に係る安全ガイドライン
			物流分野(倉庫)における情報セキュリティ確保に係る安全ガイドライン

参考:PwC「必須となりつつあるDMARCポリシー強化対応とその先にあるBIMIによるマーケティング効果」

日経225企業のDMARC導入状況

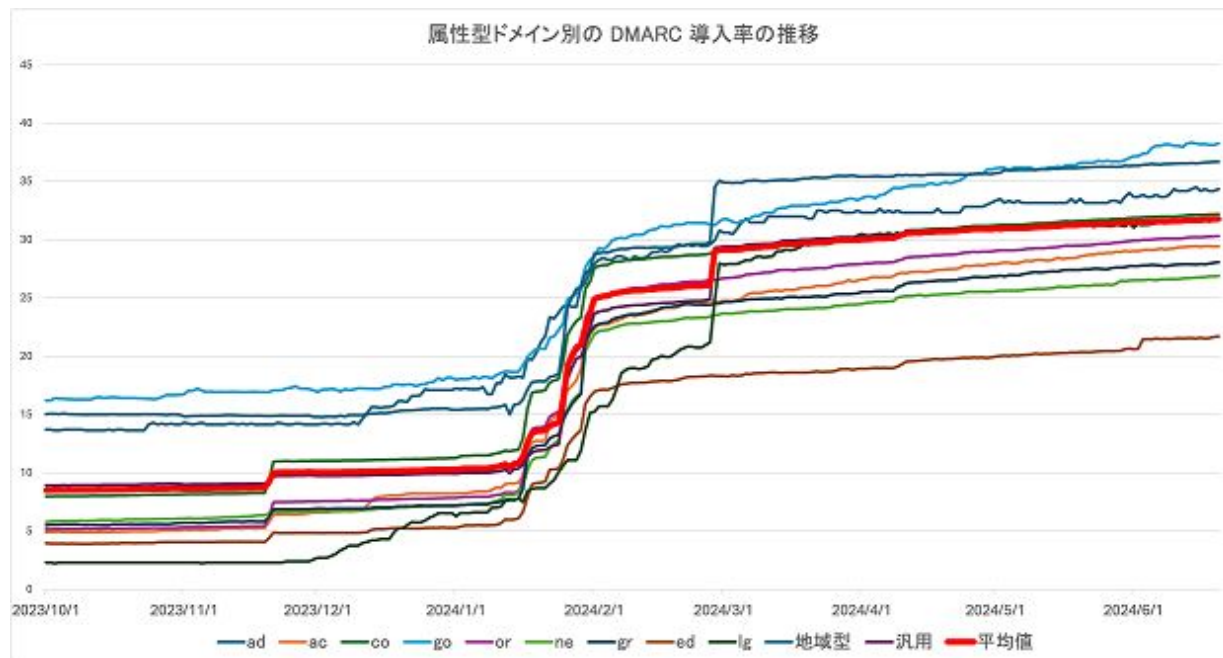
参考: TwoFive「なりすましメール対策実態調査」



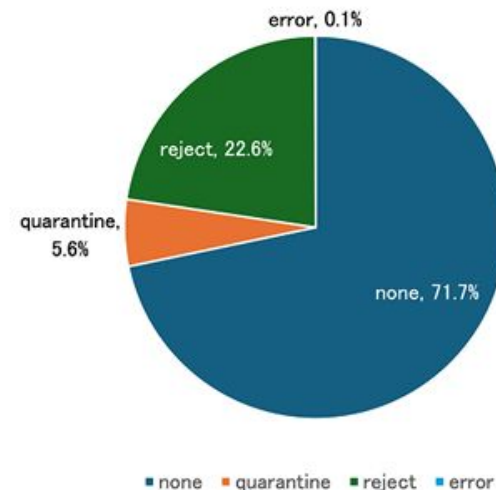
JPDメインDMARC導入実態調査

参考:IAJapan「IAJapan、全JPDメインのDMARC導入状況を発表」

属性型ドメイン別の DMARC 導入率の推移



DMARC導入ドメインのポリシー設定状況



なりすましメール対策Step

Step01



DMARC導入 (p=none)

目的 現状把握と可視化

効果

- ・自社ドメインから送られるメールの全体像を把握
- ・Gmail/Yahoo/Outlookの送信者ガイドライン要件クリア

Step02



ポリシー強化 (p=quarantine/reject)

目的 なりすましのブロック

効果

- ・悪意のある第三者によるなりすましメールを遮断
- ・BIMI導入の前提条件を満たす
- ・金融業界・政府が求めるセキュリティ基準を達成

Step03



GlobalSign 
重要なお知らせ / グローバルサイン

BIMI導入 (ロゴ表示)

目的 安全の証明とブランド価値向上

効果

- ・受信トレイでロゴが表示され、一目で本物のメールだと証明
- ・視覚的なアピールによるメール開封率の向上
- ・ブランド認知度と信頼性向上

【BIMI/VMC】メールに、認証された「本物の証」を



信頼性



メールの開封率



ブランド認知度



BIMI導入ニュース



関西みらい銀行

<https://www.kansaimiraibank.co.jp> > お知らせ

なりすましメール対策「BIMI」導入のお知らせ

当社グループをなりすましたフィッシング詐欺の対策として、2025年9月からBIMIを導入します。BIMIを導入する事で、当社グループから送信されるメールについて、対象の...



日本経済新聞

四国銀行、なりすましメール対策でロゴマーク表示を導入

四国銀行は15日、同行が送信するメールにロゴマークを表示する技術「BIMI（ビミ）」を導入したと発表した。なりすましメールへの対策で、顧客は正規の...



住信SBIネット銀行

<https://www.netbk.co.jp> > ... > お知らせ > 2025年

住信SBIネット銀行、メール認証規格「BIMI」導入のお知らせ

2025/08/18 — BIMI（Brand Indicators for Message Identification）とは、メールの送信元を視覚的に証明する技術です。なりすましメール対策を強化。送信...



大和ネクスト銀行

当社からお送りするメールへの「BIMI」導入について

当社から送信するメールのさらなるセキュリティ強化を目的として、メール認証規格BIMI (Brand Indicators for Message Identification) を導入いたします...



りそな銀行

<https://www.resonabank.co.jp> > detail > oshirase_8982

なりすましメール対策「BIMI」導入のお知らせ

BIMIを導入する事で、当社グループから送信されるメールについて、対象のメールサービスをご利用のお客さまの受信画面にブランドロゴが表示されますので、なりすましメール...



S M B C 日興証券

メールセキュリティ対策強化> S M B C 日興証券から配信するメールに当社ロゴを表示する認証規格「BIMI」導入のお知らせ

メールセキュリティ対策強化> S M B C 日興証券から配信するメールに当社ロゴを表示する認証規格「BIMI」導入のお知らせのページです。



野村證券

<https://www.nomura.co.jp/introduc/news>

野村證券から送付するメールの「BIMI」導入開始について

2025/08/20 — フィッシング詐欺防止に向けたセキュリティ対策のため、8月23日（土）以降に当社からお送りするメールにおいて「BIMI」の導入を開始いたします。... 証券業...



三菱UFJ eスマート証券

当社送信メールのBIMI認証対応について

当社送信メールのBIMI認証対応について... 平素は当社ネット証券サービスをご利用いただき、誠にありがとうございます。このたび、当社ではお客さまにより...



ヤマト運輸

<https://www.kuronekoyamato.co.jp> > ... > 2025年

ヤマト運輸から配信するメールへの「BIMI（ロゴマーク）」導入...

2025/08/26 — BIMIとは、メールの送信元が弊社であることを視覚的に証明する仕組みです。これにより、受信者は弊社からのメールであることを一目で確認できるようになり...

なりすましメール対策Step

Step01



DMARC導入 (p=none)

目的 現状把握と可視化

効果

- ・自社ドメインから送られるメールの全体像を把握
- ・Gmail/Yahoo/Outlookの送信者ガイドライン要件クリア

Step02



ポリシー強化 (p=quarantine/reject)

目的 なりすましのブロック

効果

- ・悪意のある第三者によるなりすましメールを遮断
- ・BIMI導入の前提条件を満たす
- ・金融業界・政府が求めるセキュリティ基準を達成

Step03



GlobalSign 
重要なお知らせ / グローバルサイン

BIMI導入 (ロゴ表示)

目的 安全の証明とブランド価値向上

効果

- ・受信トレイでロゴが表示され、一目で本物のメールだと証明
- ・視覚的なアピールによるメール開封率の向上
- ・ブランド認知度と信頼性向上

GMO なりすましメール対策支援サービス

協業のご提案

技術サポートの煩雑さ

- ☒ DMARCって、何から対応すればいい…？
- ☒ DNSの設定なんて、怖くて触れない…
- ☒ 導入後、お客さんから専門的な質問が来たらどうしよう…？
- ☒ 技術的な商材は、とにかく契約後のサポートが面倒…



再販モデルにおける各役割

セールスパートナー様

販売活動に専念

1. お客様との関係構築
2. サービスご提案
3. ご契約
4. ご請求

GMOグローバルサイン・HD

お客様へ直接技術サポート

1. DMARC導入コンサル
 - a. DMARCレポート分析
 - b. DNS設定支援
2. DMARC運用代行
3. BIMI設定支援
4. お客様への技術サポート

当サービスの再販モデルにおける3つの強み

圧倒的な価格競争力



価格例

A社： 200万円

B社：2,000万円

弊社： 25万円

信頼性



国内唯一のVMC発行事業者(GlobalSign)をグループ会社に持ち、DMARC設定から証明書発行、BIMI設定までをワンストップで支援。

手間のかからない高収益モデル



最も面倒な**技術サポート**はGMOが全て代行。販売に専念し、高い利益率を確保できます。

まとめ



当サービス詳細や、再販が気になった方は…

私、もしくは本日参加している弊社担当者へお気軽にお声がけください。

GMO なりすましメール対策



セキュリティソリューション

GMO なりすましメール対策支援サービス

このサービスについて

プラン紹介

選ばれる理由

サポート

資料請求

お問い合わせ・お見積もり

← お問い合わせ
資料請求はこちら

(BIMI / VMC / DMARC)

GMO なりすましメール対策支援サービス

貴社のメールに「本物の証」となる企業ロゴを表示します

あなたの会社、
“なりすまし”
されていませんか？



Appendixes

サービス紹介資料

あなたの会社、“なりすまし”されていませんか？

「本物の証」となる企業ロゴ 貴社のメールに表示します

GMO なりすましメール対策支援サービス
(BIMI/VMC/DMARC)

GMO グローバルサイン・HD
GlobalSign



事業を脅かす、なりすましメールの現実

増加するフィッシングの脅威



貴社を巧妙に騙る偽メールが、
お客様の**情報を危険に晒します。**

放置が招く、深刻な事業リスク



お客さまに被害が及んだ場合、
企業の**信頼回復は容易ではありません。**

フィッシングは、今や全ての企業の事業継続性を脅かす 経営リスクです。

【重要】主要プロバイダーが求める「送信者認証」の義務化

もはや任意ではない。ルールへの準拠は、メールを届けるための必須条件です。



Google



Yahoo!

2024年以降、主要メールサービスが送信者要件を強化。DMARC等の送信ドメイン認証が実装されていないメールは、迷惑メールとして扱われたり、ブロックされる可能性があります。

対策は、もはや“推奨”ではなく“必須”です。

解決策:メールに、認証された「本物の証」を

企業ロゴ表示は、技術的に認証された、一目でわかる「本物の証」です。



- メールアイコン部分に、見慣れた企業ロゴを表示。
- 技術的に認証された送信者であることを、受信者が視覚的に確認できます。
- この仕組みが「BIMI」、企業ロゴの正当性を証明するものが「VMC」です。

BIMI/VMCがもたらす事業価値

お客さまの安全を守ると同時に、
企業のブランド価値とビジネス機会を創出します。



ブランド価値の向上



- 開封率の向上
- ブランド認知度の向上
- 顧客との信頼関係強化



セキュリティリスクの低減



- お客さまをフィッシングから保護
- 企業としての信頼性・安全性の証明

企業ロゴ付きメール設定の流れ

企業ロゴ付きメール（BIMI）/企業ロゴ所有証明書（VMC）は、企業が送信するメールにブランドのロゴを表示するための規格です。メールの本人確認や商標登録、証明書の申請などの厳しい条件をすべてクリアして初めて、メールに「公式ロゴ」が表示されます。だからこそ、利用者に安心と信頼を与えることができるのです。

Step01



メールの「本人確認」実施 （DMARC設定）

企業は「このメールは正真正銘、当社が送りました」ということを技術的に証明する「なりすましメール対策設定（DMARC）」という設定を行う必要があります。

Step02



ブランドの商標登録

ロゴは「商標登録」された本物だけ：表示できるロゴは、特許庁に登録されているなど、法的に認められた本物のブランドロゴだけです。

Step03



企業ロゴ所有証明書 （VMC）申請・承認・発行

「このロゴは、確かにあの本物の企業のもですよ」という最終的な“お墨付き”を与える企業ロゴ所有証明書（VMC）を発行します。

ステップ詳細①: DMARC対応の具体的な流れ

DMARCの導入は、メール停止リスクを回避するため、専門家の分析のもとで段階的に進めることが鉄則です。

1、現状調査・送信元の特定

Microsoft 365, Google Workspace, Salesforce, 自社サーバー等、貴社ドメインから送信される全てのメールサービスを洗い出します。

2、SPF/DKIMの整備

各送信元が正しく認証されるよう、DNSにSPFレコードとDKIM署名を適切に設定します。

3、DMARC導入(監視モード **p=none**)

まずは監視モードでDMARCを導入し、認証状況のレポート収集を開始します。

4、レポート分析と継続的改善

収集したレポートを専門家が分析し、認証に失敗している正当なメール送信元を特定・修正します。

5、ポリシーの段階的な強化

全ての正当なメールが認証されることを確認後、ポリシーをp=quarantine(隔離)、最終的にp=reject(拒否)へと安全に引き上げます。

Point

このプロセスには通常数ヶ月を要し、継続的な監視と専門的な知見が不可欠です。

ステップ詳細②: VMC発行とBIMI公開の具体的な流れ

企業ロゴ付きメール(BIMI)の実現に不可欠な企業ロゴ所有証明書(VMC)の発行には、ロゴの商標登録やファイル形式など、国際的な規格に準拠した厳格な準備が求められます。

1、企業ロゴの商標登録

特許庁等に登録済みの、有効な商標ロゴであることを確認します。

2、企業ロゴデータの準備(SVG形式)

商標ロゴを、厳格な技術仕様(SVG Tiny 1.2)に準拠したファイル形式に変換します。

3、VMCの申請・審査

認証局(GMOグローバルサイン)へVMCを申請。組織の実在性や申請権限、商標の有効性に関する審査を受けます。

4、VMCの発行

全ての審査が完了後、VMCが発行されます。

5、BIMIレコードの公開

発行されたVMCと企業ロゴSVGファイルをWebサーバーにアップロードし、それらを指定したBIMIレコードをDNSに公開します。

なりすましメール対策をしたいけど、設定が難しそう

- ✓ VMCを導入してブランド価値を高めたいが、**DMARCという技術的な前提条件で足踏み**している。
- ✓ 設定を間違えて、全社・顧客向けの**重要メールが停止するのが怖い**。
- ✓ 専門業者に依頼したいが、どこも**高額**で稟議の承認を得るのが難しい。
- ✓ 情シスとマーケターで話が噛み合わず、**プロジェクトが前に進まない**。
- ✓ そもそも専門用語が暗号のようで、**何から手をつけていいか** 全く分からない。



ワンストップソリューション提案

国内唯一の企業ロゴ所有証明書(VMC)発行事業者 を
グループ会社にもつ当社が
ワンストップで解決 します！

企業ロゴ所有証明書(VMC)を発行できるのは、とても厳しい国際基準をクリアした電子認証局のみのため、
日本では私たちのグループ会社であるGMOグローバルサイン1社しかありません。

サーバー構築・運用30年以上の実績を持つGMOグローバルサイン・ホールディングスが、企業ロゴ所有証明書(VMC)の申請・発行から企業ロゴの表示までをワンストップで承ります。

目的とフェーズで選べる3つのプラン

お客さまの状況と目的に応じて、最適なプランをご選択いただけます。

プラン名	DMARCレポート分析	企業ロゴ所有証明書(VMC)導入支援	なりすましメール対策運用代行
こんな方へ	まずはDMARCの現状を知りたい方	とにかく手軽にメールに企業ロゴを導入したい方	なりすましメール対策を継続的に運用・強化したい方
ゴール	DMARCレポート分析	企業ロゴ導入 (DMARCポリシー:隔離)	DMARCポリシー:拒否 への移行と維持
料金(税込)	55,000円	275,000円 ※1	月額 110,000円
期間	対応期間目安 1~2ヶ月	対応期限 利用開始日から3ヶ月間 ※2	契約期間 1ヶ月
DMARC導入サポート	DMARCレポート分析のみ	○	○
VMC導入サポート ※3	-	○	-
継続的な運用サポート	-	-	○

※1 企業ロゴ所有証明書(VMC)本体の費用は含まれておりません。※2 対応期限の延長オプションをご用意しております。

※3 ロゴフォーマットをSVGに変換するオプションをご用意しております。

オプション

プラン名	VMC導入支援-期間延長オプション	VMC導入支援-ロゴトレースオプション
こんな方へ	DMARC設定強化を慎重に進めたい方	VMCを手軽に導入したい方
ゴール	VMC導入 (DMARC p=quarantine)	企業ロゴデータ調整
料金(税込)	月額 55,000円	165,000円
契約期間	1ヶ月～	なし
DMARC導入サポート	○	-
VMC導入サポート	○	-
企業ロゴデータ変換 ※1	-	○

※1 ラスター画像(jpg, png)をベクター画像(svg)に変換します。Illustratorで編集可能にするための処理です。

再販パートナー向け卸価格（一律16%OFF）

プラン名	料金	卸値
DMARCレポート分析	50,000円	42,000円
企業ロゴ所有証明書（VMC）導入支援	250,000円	210,000円
なりすましメール対策運用代行	月額 100,000円	月額 84,000円

オプション名	料金	卸値
VMC導入支援-期間延長オプション	月額 50,000円	月額 42,000円
VMC導入支援-ロゴトレースオプション	150,000円	126,000円

技術的な作業はすべて専門家にお任せ

お客さまに行っていただくのは、簡単な5つの作業だけです。

お客さまに行っていただくこと	当社が担当する専門的な作業
1. ヒアリングへのご協力 専門家からの簡単なお質問にお答えください。 お客さまの状況に最適な設定をご提案します。	
2. DNSレコードの反映 当社からご提供するテキストをコピー＆ペーストいただくだけです。ご希望のお客さまには、当社が代わって作業することも可能ですのでご相談ください。	<ul style="list-style-type: none">✓ DMARC/SPF/DKIMの導入設計✓ 最適なDNSレコードのご提案✓ DMARCレポートの監視・分析
3. 企業ロゴの商標登録 VMCの仕様上、表示する企業ロゴの商標登録が必要です。	<ul style="list-style-type: none">✓ 安全なDMARCポリシーへの移行提案✓ BIMi用企業ロゴ調整支援
4. 申込書類の記載 ガイドに沿って、証明書発行に必要な申込情報をご入力いただきます。	<ul style="list-style-type: none">✓ VMC証明書の申請・発行✓ 導入後の動作確認
5. 認証局からの確認へのご協力 証明書発行に必要な、電話やビデオ通話での簡単なお本人様確認にご対応いただきます。	

企業ロゴ所有証明書の発行もお任せください

企業ロゴ所有証明書 (VMC)

198,000円

SANオプション

158,400円

※証明書の最大有効期間は1年間です。

※価格はすべて税込です。

Q

使用したいロゴやドメインが複数ある場合、証明書は何枚購入する必要がありますか ？

A

原則としてロゴ単位での購入が必要です。

ロゴは1つで、ドメインが異なる場合は、「SANオプション」を追加することで、1枚の証明書で利用が可能です。

※サブドメインのみ異なる場合は、SANオプションは不要です。

例) ロゴ:1つ ドメイン:globalsign.com + globalsign.co.jp ⇒ メールロゴ認証証明書1枚 + SANオプション1枚

ロゴ:1つ ドメイン:jp.globalsign.com + globalsign.com ⇒ メールロゴ認証証明書1枚

選ばれる理由

GMOグローバルサイン・ホールディングスが選ばれる理由



東証プライム上場の信頼のもと、
お客さまのインフラを
安全に支えます

30年以上にわたり、お客さまの事業
の根幹であるインフラを、技術力と
組織力で支えてきました。



VMCの“発行”から“導入”まで、
当社がすべて対応

お客さまの窓口は当社が一元対応
します。複雑な業者間調整が不要
なため、手間なくスムーズな導入が
完了します。



“本当に必要な機能”だけを
納得の料金でご提供

BIMI/VMC導入に不要な高度な機
能を省き、目的達成に特化。これ
により、高品質と納得感を両立し
ています。

サービス機能表①

機能カテゴリ	項目と詳細な説明	DMARC レポート分析	企業ロゴ所有証明書 (VMC)導入支援※	なりすましメール対策 運用代行
DMARC分析フェーズ	DMARCレポート分析 お客さまのDNSに監視用レコード(p=none)を設定し、DMARCレポートを収集・分析。現状のリスクを可視化したレポートを提出します。	○	○	○
DMARC導入フェーズ	現状調査・送信元特定 お客さまの環境で利用されているメール送信元(Microsoft 365、Salesforce等)を専門家が調査・特定します。	-	○	○
	SPF/DKIMの整備 特定した全ての送信元が正しく認証されるよう、DNSレコード(SPF/DKIM)を設計・ご提案します。	-	○	○
	DMARCポリシー強化(quarantine) レポート分析に基づき、安全性を確認しながらポリシーを「監視」から「隔離(p=quarantine)」へと引き上げます。	-	○	○

※VMC導入支援-期間延長オプションも同様の機能内容です。

サービス機能表②

機能カテゴリ	項目と詳細な説明	DMARC レポート分析	企業ロゴ所有証明書 (VMC)導入支援※	なりすましメール対策 運用代行
VMC実装フェーズ	VMC導入サポート 企業ロゴのSVGデータの調整支援、企業ロゴやVMCのウェブアップロード、BIMIレコードの公開までを包括的に支援します。	-	○	-
DMARC 強化・運用フェーズ	DMARCポリシー強化(reject) 「隔離」ポリシーでの運用を経て、最終ゴールである「拒否(p=reject)」への移行を、コンサルティングと分析に基づき安全に実行します。	-	-	○
	継続的な監視・分析 DMARCレポートを常時監視し、新たな脅威や送信元の変化を迅速に検知。セキュリティが維持されていることを常に確認します。	-	-	○
	新規送信元への対応 導入後、お客さまが新たなメール配信サービスを追加した場合も、DMARCに準拠するための設定を迅速にサポートします。	-	-	○

※VMC導入支援-期間延長オプションも同様の機能内容です。

サービス機能表(オプション)

機能カテゴリ	項目と詳細な説明	VMC導入支援ロゴトレースオプション
企業ロゴデータ変換フェーズ	企業ロゴデータ変換 Illustratorで編集可能な形式に修正するための準備処理として、 ラスター画像(jpg、png)をベクター画像(svg)に変換します。	○

よくあるご質問① – プロジェクトの進め方と体制に関するご質問

質問	回答
費用は表示されている金額のみですか？追加料金は発生しますか？	はい、表示されている料金のみで明瞭会計です。追加料金は原則として発生いたしません。貴社のメール環境が複雑な場合でも、料金は変わりません。ただし、その分、分析や調査に時間を要するため、ご契約期間が想定より長くなる可能性はございます。
表示したい企業ロゴが、まだ商標登録されていません。	VMCの発行には、国際規格により、表示する企業ロゴの商標登録が必須となっております。これは企業ロゴの正当性を証明し、BIMI全体の信頼性を担保するための重要なルールです。まずは、貴社の企業ロゴが特許庁に登録されているか、ご確認をお願いいたします。DMARCの設定準備と並行して商標登録を進めるなど、効率的なプロジェクト進行をご提案することも可能です。
どのプランを選べばよいか分かりません。	ご安心ください。お客さまの目的（「現状把握」「企業ロゴ表示」「セキュリティ強化」）に応じて、基本的なプランをご用意しておりますが、最終的には専門の担当がお客さまの状況をヒアリングし、最適なプランをご提案します。まずはお気軽にご相談ください。

よくあるご質問② – プロジェクトの進め方と技術に関するご質問

質問	回答
導入プロセス中に、メールが届かなくなるリスクはありますか？	<p>導入プロセスをフェーズ分けしてご説明します。</p> <p>【フェーズ1】現状調査～監視モード(<code>p=none</code>)の期間 この期間は、貴社のメール配信に影響が出ることは一切ありません。あくまで現状を把握するための分析期間です。</p> <p>【フェーズ2】ポリシー強化(<code>p=quarantine</code>)の期間 この期間は、認証に失敗したメールが迷惑メールフォルダに隔離される可能性があります。これは、お客さま自身も把握しきれていない正当なメール送信元を、メールを失うことなく安全に発見するための重要な工程です。この「あえて隔離させる」ことで、リスクを最小限に抑えながら、最終的な「拒否(<code>p=reject</code>)」設定の安全性を高めていきます。</p>
プロジェクトの途中で、把握していなかったメール送信元の存在が発覚した場合は、どうなりますか？	<p>ご安心ください。それはDMARC導入プロジェクトにおいて、非常によくあるケースです。だからこそ、私たちは十分な「監視モード」の期間を設けています。</p> <p>レポート分析を通じて新たな送信元が検知された場合、そのサービスが正当なものかをお客さまにご確認いただいた上で、認証設定を追加します。このプロセスにより、想定外の事態にも安全かつ柔軟に対応することが可能です。プランの範囲内で対応しますので、もちろん追加費用もかかりません。</p>
もっと安い設定代行サービスとの違いは何ですか？	<p>最大の違いは、私たちが単なる「作業代行」ではなく、お客さまの事業を守る「ソリューションパートナー」であるという点です。私たちは、設定作業だけでなく、貴社の状況に合わせたコンサルティングから、導入後の継続的な改善提案まで、プロジェクト全体の成功にコミットします。その結果として得られる「安心」と「確実性」が、私たちの提供価値です。</p>